



つなかり



南予管内文化財保護指導員等研修会

12月9日(月)に、松野町にて南予管内文化財保護指導員等研修会が開催されました。4名の愛媛県文化財保護指導員の他に、11名の各市町文化財保護事業担当者にご参加いただき、文化財の見方や保護・活用についての研修を行いました。

情報交換

4名の文化財保護指導員と南予教育事務所職員が情報交換を行いました。文化財を巡視確認する際のポイントや安全確保のための方法など、大変有意義な情報交換となりました。管内研修では情報交換を行っていませんでしたが、他に文化財保護指導員が集まって話ができる機会はないため、次年度以降も継続して情報交換を実施したいと考えています。

講義

【テーマ】「奥内の棚田及び農山村景観」について

【講師】松野町教育委員会 教育課 亀澤 一平 氏

文化的景観とは何か、また、文化的景観の価値は何かをお話いただきました。その後、文化財の保護・活用について奥内地区での取組をプレゼン資料をもとにご説明いただきました。

奥内地区の環境の中で人々が模索しながら作り上げた生活・生業のスタイル、風景は、どこにでもありそうで、どこにもない奥内らしさであり、その奥内らしさが文化的景観として認められたということがよく分かるお話でした。



現地見学

講義後は奥内地域へ移動し、現地見学を行いました。県指定天然記念物「逆杖のイチヨウ」、町指定文化財「奥内薬師堂」を見た後に、遊鶴羽^{ゆづりは}集落へ徒歩にて移動しながら、地区にまつわる様々なお話を伺いました。

遊鶴羽集落では、棚田全体を眺めながら、講義で紹介された棚田で渓流水を利用するための知恵を直に見させていただきました。

景観保全には地域住民の営みが不可欠であり、地域住民がその場所で生きていくためには何が必要なのか、何を取捨選択すればよいか住民同士でしっかり話しながら決めていくことが大切であるというお話が大変心に残りました。

